



平成17年9月15日
第23号発行
千葉県漁業士会銚子支部
(事務局・銚子水産事務所)

第11回きんめだい祭り

7月17日に、銚子マリーナにおいて第11回きんめだい祭りが開催されました。

最近新聞などで取り上げられる機会が多くなり、夏の恒例行事として定着したようです。その証拠に今回の来場者数は、昨年をさらに上回る**3万5千人**となり、最高記録を更新しました(これまでの最高は昨年の2万2千人)。

キンメダイの鮮魚販売、キンメダイ料理の試食および販売のコーナーには長い行列ができ、販売開始から2時間程度で売り切れとなりました。

また、キンメダイの資源管理などを紹介する「きんめだい教室」のクイズコーナーも大盛況で、クイズ参加者は答えを探そうと、展示パネルをじっくりと眺めていたようです。

祭りは無事に終了しましたが、きんめだい祭り実行委員会では、来年もより多くの来場者に満足していただけるよう、今から検討を始めています。



キンメ漁師からのメッセージ

キンメダイ標識放流

6月9日に、銚子市漁協外川支所のキンメ研究会(会長:田邊克己青年漁業士)が主体となり、銚子市沖のキンメ漁場、通称「台形場」においてキンメダイの標識放流を実施しました。

今回は5隻の船に3~4名が乗り込み、小型個体(平均尾叉長:25.2cm)を対象に、**650尾**を放流しました。

キンメ研究会では、資源管理の取り組みとして平成6年(1994年)から標識放流を開始しています。これまでの放流尾数は今回の分を合わせて**約5,000尾**となりました。

小型底曳網試験操業

銚子市漁協小型底曳部会・船長会(以下、船長会)では、(独)水産総合研究センター水産工学研究所(以下、水工研)と共同で、「資源保護を目的とした漁具改良試験」に取り組んでいます。具体的には、グランドロープの下に逃避している小型魚の状況について調査するというものです。

5月20日~21日および7月15日~17日に水工研の調査船「たか丸」による操業試験が行なわれましたが、船長会では、オッターボードや現用網の貸し出しを行うなど、試験への協力を行っています。

また、8月下旬~9月にかけて、当業船による試験操業も実施予定です。

マダイ中間育成

7月22日から、管内の各地区においてマダイの中間育成が始まりました。

今年は種苗生産期間中に疾病が発生したため、計画よりも少ない尾数での配布となり、また、九十九里町漁協への配布が休止されるといった具合で、変則的な実施状況となっています。そんな中、**海匠漁協**で実施された中間育成に、新たに同漁協の**刺網青年部**が参加することになりました。

8月23日に、台風11号および12号の接近による緊急放流となりましたが、25日間の中間育成により、64mmにまで育ったマダイ種苗を約3万8千尾放流することができました(受入時約5万尾)。



↑ 受入時の様子

↓ 放流時の様子



少年水産教室

今年も管内の小学校において少年水産教室が開催されました。社会科学習の一環として、5年生を対象に水産業についての授業が行われています。

7月1日から、**豊倉指導漁業士**が笹川小(東庄町)、若宮小(銚子市)で、**仁濱指導漁業士**が明神小(銚子市)で「先生」として授業を行いました。

笹川小では、豊倉「先生」がキンメダイの操業に関する話から苦労した話まで、ひととおり話し終わった後、生徒からたくさんの質問が出され、終了予定時間をオーバーしてしまいました。小学生の水産業に対する関心の高さがうかがえた一日でした。

今後も多くの子供たちに水産業の魅力を伝えられるよう、漁業士の皆さんに期待したいと思います。



豊倉「先生」
(写真は若宮小学校)